

四手池（しでいけ）

位置図



諸元

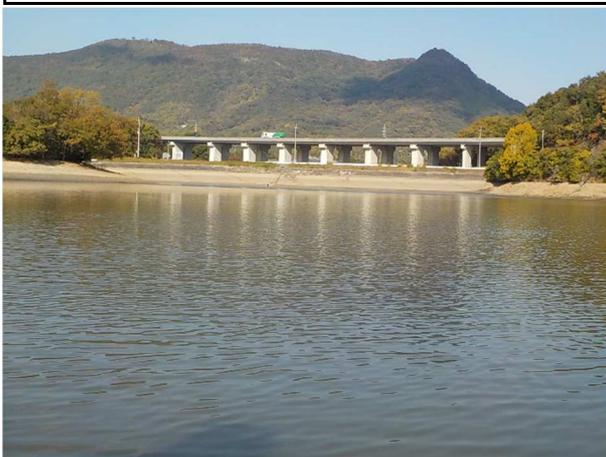
貯水量	500	千m ³
満水面積	13	ha
受益面積	37	ha
堤高	10.1	m
堤長	175	m

四手池は寛永年間（1624年～1642年）に築造された坂出市府中町に位置するため池です。当時は死出池と呼ばれており、仁和4年（888年）の大干ばつに見舞われた際の雨ごいで、「死出」の服装をした農民が集まってきたことから、死出の地と言われ、現在の四手に変わったとされています。雨ごいは、当時讃岐守として赴任してきた、菅原道真公のもと7昼夜にも及んだと記されており、大干ばつが深刻であったことが伝わってきます。

明治時代末期までは、四手池を親池として9つの池により、現在のJR鴨川駅の近く府中町西福寺付近まで綾川左岸約70町歩（70ha相当）を灌漑してきたとされていますが、配水時間の関係によりいくつかの地区が掛りから外れたことや、農地面積の減少によって、現在では約37haと当時の約半分のかんがい面積となっています。

また、当地区は、古代の「讃岐国府」が置かれていたこともあり、国司庁跡や、聖堂跡など多数の史跡が点在しています。

豊かな自然に囲まれた四手池に、史跡巡りと併せて立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



四手池南側より



竣工記念碑